俳諧七部集

七

第拾九號
俳發部
内ノ冊之
鷺池藏書

中村俊定文庫
文庫 18
686
6

景樹田文庫

曠野集負外

誰ゝ毒をはたちまち出ぬ
市中にあるとて朝のくもこそ
又其一系東四明孤蘿
きて花のこゝろハこ紙をんと
らりて佐川田喜ゝのくの山
あさ初くとのへるこゝをこ実
さうんす又
麥嗇し屠とゝくとつ紙ハ
世々尾陽の野ゝ子ゝ作て
芭蕉翁の俳へ一ちなをさり

中村俊定文庫

笑しにちいつ比田野へ居まつて
実に世間感ずむ事あるさ
きさき人の中に虎の御信と
さつき迫さ絶てる人あつまく
独色球寥しきるし諸の
杉月ふへうさ所のたのしと
様をなして寳に乃ること色の
あるさといへるも寳の字老
杜乃さろあるさや杉屋の
自我さひて

素堂

麦をも蒔ぬ年よおほ綿ぬ乃ちし

この文人乃ちつつの雲さく
さけ〳〵絶しをこ人寂き
家交を吟して

きをさしかさすみの年ちけ絶ふ　野水
錦の詠を志をろるまものまて　荷今
ものさ川うなる杉こ茅う刹　越人
門ちの石月徒園のやまひり　水
風の月刹を初秋乃ち　今

武士乃鷹うつ山を過て
きをりくついて深の雪をる　人
袋らを経と見出す雪のうへ　水
浦ふと降ら紙くを法出る　今
きくを松の直を所を乃鶴　人
千匂をなむ小山ゆくて　水
此さみく一を梅も咲ぬ　今
あてをもなき夕月夜の影　人
　　　　　　　　　　　　水

高の月を淀の雪をる初日　今
秋義なを明く資人乃妻　人
明るを西を東を鐘乃壱　水
さふく風を利根の川舟　今
みの母ちてうくてかき雲　人
家子乃りと相撲ちをて　水
ふく〳〵とさ乃姫の市の場へ　今
孤つをやく人のえをく舞　人

柏木の脚元の比のつくづくと　水
さゝやかなるものゝ哀なるつる　今
月乃氣ゝ合ゝ乃辻お撲　人
秋さなゝ原ゝ事墨乃圓桶　水
青きく紙芦の移ゝ出る姿そ　今
うれしとものゝ姫乃彼乃家作　人
かこまる諫ゝ源こほ高し　水
火鉢ゝ乃ゝ乃ゝまのあつき　今

うくすものゝ人をゝとゝ人のゝ　人
あゝせゝとゝゝく池乃かゝとゝ　水
むさゝの事教きいゝゝゝゝ　今
掛ゝく表姫ゝ家加根なの案　人
墨ゝ火きゝ正月ゝ乃ゝ　水
大根ゝゝゝゝゝいそかし　今

遠ぢや浪に志矢さす櫛と雪

はる舟夏の酒のあさ霧　荷今

のとき〳〵やあふ泊ふ荷と解て　昌碧

百足乃懼るせ茶さ寸々和茶　野水

夕月の雲ひ白ちをうち泳　舟泉

夜寒の蓑を裾よりさ物　釣雪

萩乃露ノとこともとゝめぬ所そや　公華

一駄ゐて見も吉綿　龜洞

そのゐもよそをしるゐ冠称ゝ麻　荷今

ふすゐ野ゐ中紅ゐふゝ年　宗　昌碧

いくつもあくてめるゐ大藏造　釣雪

湯殿さいゐのもゐむゐ川也　舟泉

宗しやと延ゐしゐる川の湯　野水

ゐゐかゐゐゐゐゐゐ　荷今

秋風ゐ女車の髮ゐとゐ　龜洞

神そ寒ゐゐ法輪　釣雪

時〳〵ゐのさへくゐゐのゐ　昌碧

ゐゐ山吹ゐゐゐゐゐゐ　野水

日乃いてやゐふゐ腹ゐ　舟泉

ゐやゐけゐ　ゐゐゐゐ　龜洞

向ゐて寒やゐほの小ふゐにて　荷今

垢離かゝ人のゐゐの寒　昌碧

配所よりて夢のかゝるを　釣雪
このうちふるあめのあとゝ　舟泉
むく起るあいひつきて赤腰を　野水
門をとりて茅子ようひこむ　荷今
いとゝみし是怪所の藪流し　亀洞
松毎のまゝ雨風　釣雪
ふるもの雪ふるもの下戸肴　昌碧
やゝもつ秋乃やゝあのつゝなる　野水

つゝゝも松毎のまゝ寒の窓　舟泉
ふるもの雪ふるもの泥の照なて　亀洞
夏の月やゝ秋乃涼　荷今
桶のかつゝ入しまひ　昌碧
人なゝに脇ふさして　釣雪
ついつゝとに鶴の進　野水

英一ぶ歌うきかりまきのあら

柳のうへ　ちかまきりの命　松芳

夕霧深和とるうこうしん　文

もしふくさやうえゆる月新　荷今

秋草のうへもあさ径いとゝ花　松芳

弓ひきゆるる勝相樓とく　舟泉

舟泉

[illegible]ふも赤もの拾ハむとこちなる　荷今
[illegible]の中[illegible]木のし　冬文
火鼠の皮[illegible]　舟泉
[illegible]　松芳
[illegible]ゝ　冬文
酒の半く膳をもちてゐ川　荷今
[illegible]礼をすれ[illegible]　松芳
[illegible]双[illegible]絵[illegible]　舟泉

なるもうちもとるむの皇　荷今
月のはほろやゝ[illegible]井乃及　冬文
灯[illegible]ひつ[illegible]　舟泉
[illegible]脇息のえ　松芳
[illegible]の[illegible]　冬文
十日のさく[illegible]　荷今
山星の秋[illegible]生鰯　松芳
[illegible]へるやゝさむ　舟泉

さくらの枝を屋根の月の影　荷今
馬乃とを洗てるのいあるく　冬文
さしも　さち　釜弁の春の夕雨　舟泉
蕎麦あつ〻伸　松芳
つく〻と綿　つるるのくと　冬文
饒姫の〻く　提　饗品　とむ　荷今
けしの花　さあをすると　松芳
味噌　すると　の隣　さハし　舟泉

茅屋乃門　さきとけ　新分　荷今
ぬ　ぬ　〻　あてら　ぬ　なふ　冬文
春　ぬ　赤貝　ぬ　〻　あ　〻　兒　舟泉
影　見　〻　ぬ　〻　ぬ　〻　ら　落　〻　ら　松芳
さ　ぬ　〻　ぬ　や　滝　ひ　あ　て　冬文
ぬ　〻　面白　ぬ　山口の家　荷今

荷今

雨のわの秋ふくさてる戸の口　野水

引捨し車ハ琵琶のかゝぎさて　同

あゝさう秋くもし人のゝかハ　荷今

月の秋蔵乃ちさゝさて出るや　同

一ゝ何にあしし乗乃きゝゝ　野水

初あらしこそせの寮の垣生氏　水
菜畑の中に出来たるとうもろこし　今
土肥を多くくらさせる　仝
京判おとす神社あり　水
通行のついでとこけて迎かへと　仝
六位のあるじ　意のくハささ　今
代よいとこやもくとなれひ　仝
銭一貫文紙一帖　水

月乃秋　今
茶吸ふ茶ものくい　仝
天仙羹　冷食あさしもあ　仝
うゝかけ　菊の中　水
たゝ人となる　仝
夕せもこ　今
駒のやとは　信濃　水
秋のあらし　菅原　今

[illegible] 全見昭 水

八月乃月の[illegible]いるさく 兮

山乃錦と松と[illegible]の[illegible] 水

きはさ[illegible]くとする 兮

昊[illegible]日や脇[illegible]引張ひ 仝

太敲たゝ紀乃 階子乃[illegible] 水

[illegible]やゝ[illegible]る末賃の竹杖 兮

[illegible]たゝの[illegible]舞[illegible]る 水

[illegible]ぬ新よて一三年 仝

庇をつきて住居かゝ[illegible]如 兮

三方のまむ[illegible]ゝ[illegible]ゝ 仝

供奉乃竹鞋を各へ[illegible]ゝみ 水

淺ゝや小塩大原堤[illegible]の[illegible] 仝

人[illegible]ひよりはるの川岸 集

月さしの[illegible]昼の[illegible]
[illegible]
同山[illegible]
[illegible]

月さし柄をさしてとりて同

数のおるはつる夜[illegible]　越人

[illegible]　傘下

おもひうめをさう[illegible]　同

[illegible]　人

使の者[illegible]　同

あれこれと猫の子を選るさまなし　筆
とし豊さまるまてあはるしみり　下
とこてやうものの筆えさてあはな　同
まく杉まけて法さすの　人
大鋸乃人よ法華をこあさかく　同
身さらりてく和紙縄う　下
嗜ふ橋も又ふさも皆濃　同
秋乃きをは細みるまう　人

いつのまくいつ戌芝を宵くへさ　同
寝まくく書ら文字ちゆうむ　下
花の賀くこくるひさる後つ　同
見あく糊ちこをきくの　人
うち翔く浦の貝屋の絵ニさ　同
内へさいてなる年ゆう　大　下
酔さのあはちをけるの　同
毎志摩乃海乃保出　人

歌あそび　福寿海　同
まゝ　獻立のこと　ちのは　下
灯　基礎油　押くし　同
白　たとせ　人
蛸　風呂　同
半　こたつ　下
ちつく　月秋　同
人の　人

にぎハ　瓜や　苔やを　荷ひ　下
下　所　中　人
杉　山　小法の　宿　下
皆同　寿　仏　人
百万　ひ　下
四樂　さ　人

深川の夜　越人

[illegible]　芭蕉

[illegible]　仝

[illegible]　越人

[illegible]　仝

[illegible]　芭蕉

かすかなる長安見る月の地　仝

腎の杯をとめく月ゝ見る　越人

いそうと師走の乃こゝろあく　芭蕉

鶏とあ世話やく寺の松ゝ　越人

比丘尼さ古を乞ふ寺ふ見つゝ　芭蕉

足駄ちの雨乃あけぼの　越人

きぬ〳〵やあるとかゝくあるゝ　芭蕉

こゝ乃ひをたゝふ芭乃つくし　越人

手とつの蚤の膳をすゝ見ぬ　芭蕉

物いそくさき舟ふ大わ乃季　越人

月とゝ比良のるゝを小ゝて　芭蕉

市〳〵雀さゝつるゝ乃ゝ肌ぬゝ　越人

破れ〳〵の行ゝ乃ゝ付ふ乃末　仝

人をハさゝ〳〵ゝ麥みひきハ　蕉

家ゝ〳〵て眼ふ衣るゝ十す鏡　人

ゝの杉ゝひゝるゝ神ゝ乃ゝ人　蕉

人去ていまだ埜乃白ひかる　人

弥勒寺籠り堂そばの片隅　蕉

年とりに氣のあるくらゐ休さ　人

煩悩のさとり寂しく　蕉

あやにくと妹ゝ〻あり夜　人

いのちをたゝなみてもめ　蕉

月ゆゑに物思ふ秋さに　人

雁も遠く鶏もいねふり　蕉

秋の田をかゝせもあらぬ雨もたく　人

さいゝ〻文字問さらる　蕉

いろ色〻〻風底さら木茶屋　人

鉢を東野子乃柳〻ひあき　蕉

宅の比徳義ゝ〻ふもゝやはし　人

田所一をゝふゝ腥さゝち　蕉

翁と伴なひて[illegible]の

[illegible]　長角

蓑虫の苔荷[illegible]文也天津厂

三笠さの月見雲のうかぶ　越人

蔦萩の庭さ[illegible]川つたて　全

飯てりの[illegible]　角

晴うまて袖[illegible]る夏衣　全

歯さ[illegible]へあるよのう　人

恋する間まつとなほりて　人
静御前くるまを　角
空蟬の雛鶯の　全
あとをのこるアとくるす　人
いとをしさをとゝ　全
やけとふをして　角
間鍛さ耳くつきるこをを　全
負をもつゝぬ月のに形舟　人

そをいろの富士を陸奥紙　全
なみくにしてる草乃一氣　角
饅頭をゝ神さ神く包こる　全
うさ世さつて死ぬ人ハ損　人
西王母東方朝も用ようます　全
よ〳〵や鸚鵡の舌乃こゝ　角
あちさなやさちさきく夜の妻　全
恋の氣さを多毎ゆ恋さのまん　人

やゝ杉ゐひ高くおく袖うちぬれて　仝
茅つくる青き師匠をなかりの　角
夕物寂の手さぐく股乃さ宿　仝
いくかりの作をを荷ふ張力　人
穴いちよ塵ちちひ草枕　仝
ひいかさりて伊勢の八朝　角
満月と不断の橋を渡えや　仝
念者法師さく秋のあさの浅　人

夕まくれ中さくさ蛍子　仝
うらひる窓あきのまと　角
をさくさ食の結字植ゆひて　仝
をのさくさ鳥士の園とて　人
なのもあちつき脇ときや　仝
むくさ嘆積乃喜　仝

嵐雪

寒そうしく酒八人の醒さめ紀

秋うそ寒しいつも陽燵　越人

月の宿書をうちすてゝ　仝

外面茅の穂ひらけそめ　雪

ちらあひうく牧さかりぬ　仝

川越うそ紙ゝ城下のうら　人

疱瘡息の遠とをるかと歯の
喝ものをきくすく壱かそりなる　人
ものをみるものの絶くのこをかく　雪
後をひよくやいふのをとあるき　同
をををををを曲あをするをあすき　越
行絶をるををかへる浪人　人
をを祖を礁をうてを一川脱　嵐
四日を彩友をるを春の月影　雪
をををの乃聖をを信みる女をを　越
つきをの醫者乃後姿や　人
をるむ月をををれをも墓　雪
をををををを仏をいをん　越

野水

泊雲やこと〳〵のひさる桐の末に

月のみ〳〵うきやしをりの名起　落梧

山川や鵜の嘴ものとさうすん　仝

鵜ゝ来遠かゝしうえかとゝる　野水

杜鵑ふさま押合月は草外つ　同

あゝとゝしもち櫃ゆち萩　落梧

川越乃雪ふるさとの穐の雨　水
れふを痛くる秋のさびしさ　梧
つゆせてをわりあるくかるの下　水
すうくさあふひのうすこひ　梧
更るあの沖そむつとあ欣く　水
こそくり鶏す相伴ふ俳　梧
峯の松あちあるをあうを　水
袁をおうちのんちの雛さ　梧

京さ玉子あまのあまこと一文さ
下戸ち皆いく月のおそろき　梧
耳蕎やくくもふ敷なす　水
ゆうを名さ珍さきふの初午　梧
いい川やもるる実ぬ母おん　同
山伏沒てく人志ふ法なるあ　水
くうくくとくくさひぬきる茶車　梧
机掛るて孫国さ夕秋　水

何ものを活けるか髮を振おほひ　梧

言ふく知らいさ地ほ紙なるさ　水

まつうとものやうる馬ふるさのせうく　梧

うるふ月年を銘孫めつり　水

雨やうくうきれちるく面白や　梧

柳ちるものや倒の道道　水

新なるく月てさい秋十角　同

寂しく丈秋我女まるるかり　梧

白と上まくあるるやうし　水

秋ふくるやつくの酒　仝

秋ものの干奥侍るこれ切さ　梧

誰ゝ年ゝ我ゝへ見てゝ酒　同

東乘乃ゝうる峠ゝ酒　水

わくかゝてゝ紙へと雪雀　梧

一筆ぢ炭賣きいつゝ名義と　一井

かゝひの支ぢ紐氷る朔　嵐弾

ささくぢ世正木をゝ引き後ゝ尼　胡及

肩さ姫さつ毛酒さくゝふ人　長虹

夕月ぢ入さゝ早き掘ゝきハ　嵐弾

たゝに鄭をつゝゝむ秋　一井

里深く踊あり二三日　長虹
玄同ゝ妻ゝかれら秋葉　胡及
問ハ絶ゝ涙ゝあのゝ紀　一井
菖蒲ゝさてゝ切なゝ文　嵐弾
うゝゝ山ゝ家紀なゝゝ湯を　胡及
ゝゝゆく東羊の越　雪鋤　長虹
なゝゝすゝよゝあひてゝゝ知る　嵐弾
蛤ゝアゝゝゝ女中　一井

蒲風ゝ脛吹まゝる月涼ゝ　長虹
みるゝ分ゝゝ紀伊の魂屋　胡及
弓者乃ゝ矢射て杉の陰　一井
蒜ゝ香ゝ遠ゝゝ　嵐弾
はるのゝ秋あゝゝ　胡及
民の子乃綿　乃稲ゝ落つ　長虹
ゝ内もゝゝ度　嵐弾
座安ゝある敷屋を　一井

木もさすがにあるべき松の枝　長虹

秋にうる人〳〵乃真　胡及

世年さなるべく爰の跡もなさ　一井

海くれもせぬ雪ついたる八月　嵐弾

蓮もなく障子の陰ばかりそ寒き　胡及

こさくるもうしほむ蓮のと　長虹

涉き橋入さの名のさるるに　嵐弾

衣引ゐるしの人のさく　音　一井

毒なりと瓜一さ紙も吟めさ　長虹

片風ゐるるる　白雨　胡及

板屋さて踏雨なさ庭の図　一井

さるる結地さるる月さ尾丸　嵐弾

ゆくゆくや月さの寺紙ぬ如雲　長虹

見わるすわさるるつし　胡及

寛政七年乙卯春三月再刻

皇都書林

筒井庄兵衛
中川藤四郎 梓
野田治兵衛 行

芭蕉翁
俳諧七部集續編

小刻全部二冊出來